

ローカルマネー徹底解剖 歴史と内容、種類の解説 / 泉 留維

「地域通貨の歴史と種類」『月刊オルタ』アジア太平洋資料センター

2001年3月号 pp. 14-17

(掲載された記事とは、若干構成が違っています。)

ローカルマネー、地域通貨、コミュニティ通貨、その呼び名は様々ですが、地域・コミュニティ限定、特定目的で流通するお金が、今、世界各地で流通し始めています。このような普段私たちが使っている円とは違うお金である地域通貨は、助け合い関係の構築から循環型経済の形成まで、様々な目的で自主的に市民が管理し、利用しています。しかし、相互扶助関係の再構築、地域経済の活性化などを狙った地域開発のための地域通貨導入は、何も今に始まったことではありません。古くは、1816年に初めて発行され、今でも使用されているイギリス・ガーンジー島の“State Notes”や、ロンドンやバーミンガムなどで1832～34年に行われたロバート・オーウェンの労働証書の実験までさかのぼることができます。そして、1800年代半ばから各国で中央銀行が設置されて以降、現在に至るまで、歴史的に1度だけ地域限定の補完通貨＝地域通貨が世界各地で導入されたことがあります。それが1930年代です。1929年のアメリカ発の大恐慌は、瞬く間に世界各地に伝播し、大幅な失業率の悪化や物価水準の下落を引き起こしました。この不況から脱出する1つの手段として、地域通貨が各地で導入されたのです。

30年代の地域通貨に大きな影響を与えたものとして、シルビオ・ゲゼルの著書「自然的経済秩序」をあげることができます。彼は、郵便局等で印紙を購入し、毎月それを貼付しなければ価値が保持できない「自由貨幣」の導入を提唱しました。そして、この理論を実践するために、ドイツで1929年、額面上はマルクと等価ですが、時の経過と共に減価していくスタンプ貼付型貨幣を発行するヴェーラ交換組合が設立されました。1930年、この組合と協力して、シュヴァネンキルヒェンの地場産業が導入したヴェーラは、毎月額面の1%のスタンプを購入し、紙幣に貼付しなければ、有効でなくなるものでした。ここでの取り組みが成功し、ドイツ全土の多くの都市で導入され、約250万人が使用しました。そして、30年代の導入例の中で最も有名なものが、オーストリアの小さな町であるヴェルグルでの取り組みです。人口わずか4,300人のこの町で、町長が、500人の失業者と1,000人の失業者予備軍を抱えている町の経済を活性化するために、自由貨幣を実験してみることを決意しました。すなわち、貨幣の流通が滞っているのが根本的な問題であると考えた彼は、スタンプ貼付型貨幣を導入したのです。また、アメリカでは、エール大学のフィッシャーが、ドイツでのヴェーラによる地域経済再生に注目し、同じような通貨導入がアメリカでも不況脱出の政策として有効なのではないかと考え、様々な提案をしました。そして、アメリカ全土の数千のコミュニティでスタンプ付き貨幣が導入されることになりました。しかし、この30年代の地域通貨の多くは、成功の兆しがありながらも、政府・中央銀行によって廃

止に追い込まれてしまいました。

20 世紀前半における地方政府及び地場産業主導型の地域通貨の実施は、第二次世界大戦への流れの中で消え去ってしまいましたが、1980 年代に入り、30 年代とは異なった性質・形態・発想をもつ市民主導型の地域通貨が、世界各地で流通するようになりました。現在使用されている地域通貨には、価値基準の設定や目的の違いから 2 つに分類することができます。またシステムによっても 3 つに分類することができます。まず目的などによる 2 分類ですが、人と人の助け合いや相互扶助を行うための道具として機能し、インフォーマルな経済で有効に働く「時間預託・貯蓄システム」と、モノ・サービスの売買を通じながら地域振興の道具として機能し、インフォーマルとフォーマルな経済の間で有効に働く「地域取引システム」に分けることができます。特に、時間預託・貯蓄システムは、すべての人間が公平に持っている時間に注目し、それを唯一の価値基準にしたものです。また、クレジット発行方法・メンバーシップなどの違いから 3 つのシステムに分けることもできます。すなわち、口座変動形式、クーポン発行形式、借用証書形式です。口座変動形式とは、会員となった個人が口座を開き、相対で取引が行われると、プラスポイントと、これに対応するマイナスポイントが双方の口座に発生し、そのポイント分のクレジットが毎回創造されるものです。つまり、サービスを受けた人の口座は、その取引価額のみだけマイナス、与えた人はプラスとなり、事務局が管理する各々の口座に記録されていきます。クレジットは、数字の形でのみ現れ、各自の口座の変動によってその多寡が表示されます。次にクーポン発行形式ですが、これは、何らかの担保に基づいて、もしくはまったく担保無しで、事務局がクレジットを発行するもので、ある種のクーポン券が循環し続けるものに近いです。クレジットは、目に見える形、主に紙で表象されます。会員制をとる場合がほとんどですが、その紙券の信頼度によっては、紙券が会員以外にも流通する可能性があります。そして、借用証書形式ですが、商取引で使用される手形とよく似ていて、最初はただの紙切れですが、取引をする際に必要な箇所に日付・署名等を入れて振り出すと、額面分の価値が生じるものです。すなわち、個人間の貸し借りという形で、クレジットが創造されます。発行者にこの借用証書がもどってくれば、無効になり、清算されることとなります。会員制をとりますが、会員個人間の相対信用が連携していくので、他の形式と違いシステムの運営主体は基本的には存在しません。

ここで、3 つの地域通貨のシステムの違いを具体的な事例を通して見ていきたいと思えます。まず、口座変動形式であり、もっとも普及している地域通貨である LETS (Local Exchange Trading System) から紹介します。1983 年、カナダのブリティッシュ・コロンビア州バンクーバー島にて、LETS は始められました。会員登録した人は、配布されるサービスリストの情報に基づいて連絡を取り合い、相対で代価の交渉を行います。実際に取引が行われると、使用された小切手(写真 1 参照)や取引が書き込まれた通帳によって事務所へ報告され、各メンバーの勘定に記録されます。LETS で運用される地域通貨は、紙券のような実在するものではなく、事務局が管理する口座内で、取引に応じたバランスの変化

によって定義されます。地域経済振興の手段として普及を促進したカナダでは、あまり浸透せず、コミュニティの再構築・相互扶助関係の促進を目指したオーストラリア・イギリスなどで広がりを見せました。ちなみに、イギリスでは、この LETS を導入している団体は数百存在し、約 3 万人が参加していると言われていました。また、この LETS と同様のシステムは、ドイツでは交換リング、フランスでは SEL などと呼ばれています。次にクーポン発行形式ですが、ニューヨーク州・イサカ市の中心部から約 30 マイル四方でのみ流通するイサカアワーズ (Ithaca Hours) とよばれる地域通貨が、1991 年に導入されました。地域の能力や資源を可能な限り地域内で保持し、自らの生活に活かしていくための手法として考えられました。1 アワーは 10 ドルに相当し、2 アワーズから 1/8 アワーまでの 5 種類の紙券 (写真 2 参照) が発行されています。住民が、1 ドルを支払って提供できる商品やサービスの会報誌掲載を申しでると、住民に 1 アワーが、イサカアワーズ管理委員会によって発行されます。2000 年 3 月現在、数千人の住民と約 400 のビジネスがアワーを受け入れ、日々取引をしています。このイサカアワーズと同様のシステムを導入しているところが、98 年末の時点で、アメリカで 40、カナダで 7、イギリスで 1 団体あります。そして、借用証書形式の地域通貨ですが、このシステムの導入例はまだ少ないですが、今後広まっていく予感があります。それは、これまでの地域通貨の問題点、運営主体や運営コスト、その持続性の問題をある程度解決したものだからです。ここでは、日本で行われている WAT 清算システムを紹介します。事務局を置く必要がなく、同等な関係者が相対信用で連帯していく WAT (ワット) 清算システムは 2000 年に立ち上がりました。ワットには、会員間の関係に上位する運営団体は存在せず、会員もワットを受け入れる意志があれば会員となれます。ワットには、3 段階の取引形態があります。まず、ワット券 (写真 3 参照) の (乙) の欄に自分の名前などを記入し、(甲) の欄に取引相手、すなわち貸し主の名前を記入して、振出帳からワット券を切り離し相手に渡します。これを振出取引と呼び、ワットが誕生したことになります。このワット券を受領した人は、第三者の会員との取引に、先ほど入手したワット券を使用できます。このとき、ワット券裏面に自分の名前などを記入します。このワット券が、会員間を次々と巡っていく取引を通常取引と呼びます。そして、最初に発券した人にそのワット券が戻ると、この証書は清算されます。つまり、WAT 清算システムは、振出取引 通常取引 清算取引という経路をたどるシステムになっています。目的などによる 2 分類とシステムによる 3 分類、そして各地の事例をまとめたのが、表 2 です。アメリカ・イギリスなどでは、1980 年代半ばから本格的に地域通貨導入が始まった一方で、海外での地域通貨の浸透に遅れること約 10 年、日本でも 98 年頃から注目を集め始め、99 年から各地で地域通貨導入の動きが目立ちはじめました。現在では、北は北海道から南は鹿児島まで、数十の地域通貨コミュニティがあります。ただし、日本においても「ボランティア労力銀行」などの時間預託・貯蓄型の地域通貨的活動は以前から行われていて、これを含めると日本全国に 400 近い地域通貨導入団体が存在することになります。その中でも、LETS の影響を受けている千葉市の「ピーナッツ」、イサカアワーズの影響を受けてい

る滋賀県草津市の「おうみ」、タイムダラーを日本流にアレンジした新居浜市の「わくわく」、そして日本独自のシステムである「WAT 清算システム」は、日本各地の取り組みに大きな影響を与えています。

現在の地域通貨システムは、30年代に比較にならないほどそのシステム・目的が多様であり、それだけ地域コミュニティが様々な問題を抱えているのでしょう。また、先進国のみならず、通貨危機などで疲弊したコミュニティを自立的発展させるために発展途上国でも地域通貨の導入が始まっていて、徐々に地域コミュニティに浸透していています。

<参考文献>

河邑厚徳 + グループ現代 (2000) 『エンデの遺言：根元からお金を問うこと』NHK出版
森野栄一監修 / あべよしひろ・泉留維著 (2000) 『だれでもわかる地域通貨入門 - 未来をひらく希望のお金』北斗出版

表 1：代表的な地域通貨の歴史

年代	地域通貨の種類及び関連事象	国及び地域	発行主体
1816-	ナポレオン戦争で悪影響を受けたチャネル諸島のガンジー島で、利子の付かない紙幣が独自に発行される。	イギリス（ガンジー島）	地方政府
1832-34	ロバート・オーウェンによって「労働証書」が発行される。	イギリス（ロンドンなど）	民間団体
1929-31	ババリア地方でマルクの代わりに、「ヴェーラ」と呼ばれる地域通貨が使用され、各地に伝播する。	ドイツ各地	民間団体 私企業
1930-33	400以上の都市、数千のコミュニティで「スタンプ付き貨幣」が発行される。	アメリカ各地	地方政府
1932-33	ヴェルグルで、労働を対価とした労働証明書が発行される。同様の方式が200以上のコミュニティで採用される。	オーストリア各地	地方政府
1934-	補完通貨「WIR」を利用したWIR銀行が設立される。	スイス（チューリッヒなど）	銀行
1972-73	マサチューセッツ州のエクセターで、30の商品からなるバスケットに基づいたコンスタンツが発行される。	アメリカ（エクセター）	民間団体
1983-	マイケル・リントンによって、「グリーンドル」を使用するLETSが始まる。	カナダ（バンクーバー島）	民間団体
1985-	イギリスでLETSの導入が始まる。（これ以降世界各地に広がっていき、オーストラリア（1987-）、フランス（1994-）などで導入される。イギリスで本格的に導入されたのは92年から。）	イギリスなど	個人
1987-	エドガー・カーンによって、1980年から実験されてきたタイムダラーが本格的に各地で導入される。	アメリカ各地	個人
1989-	シューマッハ協会を中心にして、マサチューセッツ州でデリダラーが発行される。	アメリカ（グレート・バーリントン）	民間団体
1991-	ポール・グローバーによって、ニューヨーク州イサカ市で地域通貨「イサカアワーズ」のシステムが起動される。	アメリカ（イサカ）	民間団体
1995-	アルゼンチンで、紙券を使用する「RGT」が始まる。2000年に、参加者が30万人を越える。	アルゼンチン各地	民間団体
1996-	メキシコで、紙券を使用する「トラロック」が始まる。	メキシコ各地	個人
1998-	LETSが改変され、より市場経済志向であると同時にコミュニティ活性化志向のトロントダラーが発行される。	カナダ（トロント）	民間団体

（出所）泉留維（2000）「地域通貨の有効性についての考察(2)」『自由経済研究：第16号』

（ぱる出版）pp. 33 より一部修正

表 2 : 地域通貨システムの分類表

地域通貨システム						
地域取引システム				時間預託・貯蓄システム		
目的	・域内の経済循環の形成 ・コミュニティの活性化				・地域内での相互扶助の促進 ・コミュニティの活性化	
形式	口座変動形式		クーポン発行	借用証書形式	口座変動形式	クーポン発行
	通帳型	小切手型	形式			形式
発行主体	個人 (登録会員のみ)	個人 (登録会員のみ)	発行委員会/ 事務局	個人	個人 (登録会員のみ)	事務局
値決めの方法	交渉による値決め	交渉による値決め	交渉による値決め/市場により決定	交渉による値決め/市場により決定	すべてのサービス1時間を1点と換算	すべてのサービス1時間を1点と換算
流通範囲	メンバーコミュニティ内	メンバーコミュニティ内	地域内	システムによる制限無し(運営側による制限可)	メンバーコミュニティ内	メンバーコミュニティ内
国内事例	ガル (苫小牧市) ビーナッツ (千葉市) ハヶ岳大福帳 (高根町)		おうみ(草津市)	WAT 清算システム(全国) Yufu(湯布院町)	NALC (全国)	ボランティア労働銀行(全国) さわやか愛知 (大府市) だんだん (関前村)
海外事例	デーマーク (ドイツ) タレント (スイス)	LETS(イギリスなど) SEL(フランス)	イサカアワーズ (アメリカ) RGT (アルゼンチン) トロントダラー (カナダ) (1930年代の多くの補完通貨)	トラロック (メキシコ) ピア・クッチュム (タイ)	タイムダラー (アメリカ) 時間銀行(イタリア、中国など) フェアシェアーズ(イギリス)	

(出所) 泉留維(2001)「地域自立のためのオルタナティブな貨幣・金融システム」『現代文化研究: 第77号』(専修大学) pp. 20